

# 学力向上を図る授業改善の実践研究

～新指導要領の趣旨をいかした社会科学習の授業作り～

## 第4学年小単元「ウェルカム福岡県～〇〇〇〇君にわたしたちの福岡県を紹介しよう」

〇〇小学校 〇〇 〇〇

### 〇 はじめに

平成20年3月には新学習指導要領が、平成20年6月には、「平成21年4月1日から平成23年3月31日までの間における小学校学習指導要領の特例を定める件（平成20年文部科学省告示第98号）」が告示され、小学校においては、移行期間の平成21年度から新学習指導要領にしたがって学習を進める内容が示された。

学力向上を図ることを重点とした新指導要領の趣旨に沿って社会科学習の授業作りを行っていくことは、学力向上を図る授業改善の実践研究に欠かすことができないと考えた。

### 1 平成21・22年度に実施する移行措置について

文科省の「学習指導要領の改訂に伴う移行措置の概要」では、以下のように述べられている。

1. 移行措置期間における基本方針
○ 平成20年度中に周知徹底を図り、平成21年度から可能なものは先行して実施。
○ 移行措置期間中に、教科書の編集・検定・採択を行い、小学校は平成23年度から、中学校は平成24年度から新しい学習指導要領を全面实施。
2. 総則や道徳等は直ちに先行実施
3. 算数・数学及び理科は教材を整備して先行実施
4. 他の各教科等（学校の判断で先行実施）
○ 各教科（算数・数学及び理科を除く）は、学校の判断により、新学習指導要領によることも可能とする。
○ 但し、以下のものについては、全ての学校で先行実施
・ 地図帳で指導可能な「47都道府県の名称と位置」等の指導（小学校）
・ 音楽の共通歌唱教材として指導する曲数の充実等（小・中学校）
・ 体育の授業時数の増加（小学校低学年）

つまり移行期間の小学校社会科について、「47都道府県の名称と位置」は、全ての学校で先行実施していかなければならない内容としてある。そこで、本年度の中央区研究会において「47都道府県の名称と位置」について、単元の中でどのように取り上げていくかを実践研究としていくようにした。

### 2 「47都道府県の名称と位置」の指導について

では、小学校で都道府県名の名称と位置をどこまで指導していかなければならないか。小学校学習指導要領では、

「第2章各教科 第2節社会科」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 (2) 各学年において、地図や統計資料などを効果的に活用し、次第に我が国の都道府県の構成について分かるようにすること。
---

とある。これでは、「都道府県名と位置を覚えよ」と言っているのか否か、分からない。

そこで、学習指導要領の解説「社会編」を開いた。

小学校終了段階までには、我が国は47の都道府県から構成されていることを理解し、日本地図上でそれらが分かるようにすることが大切である。
--

この文も微妙である。「それら」は、「47の都道府県」を指す、とすると、「日本地図上で47の都道府県が分かるようにすることが大切」だということは、白地図に県名を書き込めるくらいを要求しているのか、それとも、地名の入った日本地図から探すことができ、「ああ47あるんだな」と理解すればいい程度なのかよく分からない。

そこで、「中学校学習指導要領」を見ると、「地理的分野」の「内容の取扱い」に次のようにあった。

なお、都道府県の位置と名称については「地図を用いて身に付けさせ、大まかに日本地図を描けるようにすること。」「国名や都道府県名を確実に身に付けさせる観点から、適宜機会を設けて計画的に指導すること。」

すなわち、

「都道府県名と位置を、小学校では完全な習得を求めてはいない。学習した事例地や歴史学習に登場した地名を地図帳等で検索する活動を通して、だんだん覚えていけばいい。中学校で、確実に身に付けさせるように計画的に指導する。」というようにとらえた。

また、『解説社会編』では、

「47 都道府県の名称と位置」を調べることについて、「我が国が 47 の都道府県によって構成されていることが分かり、都道府県の名称と位置を一つ一つ地図帳で確かめ、日本地図（白地図）上で指摘できるようにすること」

と述べている。

「日本地図（白地図）上で指摘できるようにする」ことも求められているが、

「なお、47 都道府県の名称と位置については各学年においても指導し、小学校修了までには確実に身に付け、活用できるようにする必要がある。」

とも述べている。

すなわち、〔第 3 学年及び第 4 学年〕の内容(6)アの学習において、完全な習得をめざした指導を行うのではなく、第 5 学年、第 6 学年の社会科及び他の教科等において、積極的に地図帳を活用し、名称や位置を繰り返し確認していくことが大切であると考え。また、白地図上で指摘できるようにする指導を行うにあたって、6 年生修了時までの完全な習得をめざした見通しをもった指導を行っていくことが求められていると思われる。

つまり、4 年生の学習においては、自県の学習において他県との関わりにおいて都道府県の学習に触れ、継続的・計画的な指導を行っていくことと考え、本単元に取り組むようにした。

### 3 「47 都道府県の名称と位置」の指導にあたって

#### ① 児童の実態把握

まずは学習前に、現在児童がどの程度 47 都道府県について知識をもっているか実態調査を行った。

- 福岡県を位置まで確認できる児童 14/24 58%
- 福岡県を確認できない児童が指し示した所  
佐賀… 3 山口… 2 熊本・大阪・愛媛・富山… 1 不明… 1
- 名前と位置が一致する都道府県数 平均 5 県（最高 19 最低 0）
- 名前と位置が一致する都道府県  
北海道… 18 福岡… 14 沖縄… 11 青森… 10 佐賀… 9 熊本… 7
- 名前を認識できている都道府県  
福岡県… 23 熊本県・青森県… 20 佐賀県・東京都・北海道… 18
- 名前を認識できていない都道府県  
長野県・和歌山県… 0 福井県・静岡県・滋賀県・香川県… 1

福岡県の位置が確認できていない児童が半分近くおり、他の都道府県になるとなおさらである。0 の児童は、北海道に「北九州」と書いており、県の概念自体がないものであると考えられる。そのため、本単元では、校区一市一県という概念を形成させ、わたしたちの福岡県という意識を持たせる所からのスタートにしていきたいと考えた。

また、位置は確認できなくとも名前は認識できている都道府県は結構あり、児童の意欲を高めていくことで、興味を持たせることができると考えた。

## ② 目標設定

そこで、次のような目標設定を行った。

・日本には都道府県が47あることについて理解し、興味を持って学習に取り組むことができるとともに、つながりのある都道府県の名前と位置を覚えることができる。

4年生の段階で、またこの単元のみで全ての都道府県を覚えさせようとは考えていない。この単元では、学習の取りかかりとして位置付けていきたいと考える。

「つながりのある」とは、児童にとってということなので、個人差があっても構わない。今後の学習の中で、生活とのつながりに気付かせていきたいと考える。よって、継続的な指導が必要となってくる。

## ③ 継続的な指導方法

・47都道府県の白地図をノートにはり、いつでも見ることができるようにしておく。学習中に新たに出てきた県には、色を付け、名前を書き込みながら、覚えていくようにする。

・本校ではNIEとの関わりで、毎朝3紙の新聞が4年生以上の各クラスに配付されている。そこで毎朝、新聞から大きなニュースなどを取り上げ、社会の時事的な話題についても触れているが、その中で都道府県についての話題も取り上げていくようにする。

他には、社会科の中で5分程度の地図タイムを設定したり、自主的な調べ活動を推奨するなどしていく。

1度に覚えさせても、児童は忘れてしまう。継続的に指導していくことが、重要だと思われる。

# 第4学年 社会科学学習指導案

指導者 ○組 ○○ ○○

## 1 小単元名「ウェルカム福岡県～○○○○君にわたしたちの福岡県を紹介しよう」

## 2 小単元の考え方

### こんな児童だから

#### <学ぶ意欲・態度>

学年の児童はこれまでの社会科学学習において、社会事象や人物と出会い、自分の課題を持って学習を進めることができるようになってきた。また、体験的な活動を非常に好み、自分の五感を使っ  
ての調べ学習には積極的に取り組むことができる。しかし、意欲が長続きしない児童も多く、途中で  
追究する意欲が低下してしまう児童もいる。

#### <問題を解決する力>

- ・ 「ゴミとわたしたちの暮らし」の学習では、自分の身近な問題を取り上げ、家庭での聞き取り活動などを行ったため、課題を明確に持つことができた。
- ・ 追究活動では、清掃工場の見学やパッカー車の見学など体験的活動を多く取り入れたため、非常に意欲的に取り組み、学習の課題についても、よいこの社会科や副読本、見学でもらったパンフレットなどを活用して熱心に調べることができていた。また、「昔から続く祭りー博多山笠ー」の学習では、時期がタイムリーだったこともあるが、TVの番組で見たり、家庭や教室の新聞から記事を探して切り取ったり、実際に行ったりする児童など学習に自主的に取り組む姿も見られるようになってきた。資料の読み取り等は、学習中に時間をとって指導したために、次第に育ってきているが、まだ個人差が見られるため今後も継続して指導していく必要がある。
- ・ 素朴な疑問や思いついたことなど、表現できる児童もいるが、それを文章化したり、明確に根拠を用いた説明をしたりということはまだ不十分である。また、自分の考えを持つことが難しい児童や、考えの根拠を明確にさせることができない児童もおり、交流活動で友だちの考えを取り入れながら、自分の考えをつくっていくように指導してきている。
- ・ ラベル図の作成については昨年度の経験もあって、ほとんどの子が意欲的で、ラベル図を使った学習が好きな児童が多かった。

#### <生きて働く知識（見方・考え方）>

本学級の子どもたちは、国内の様々な場所に行った経験を持っている。しかし、行った経験はあっても、それが県内なのか県外なのかははっきりと理解することはできていない。福岡県内で知っていることを尋ねると校区内や、福岡市内のことはあげられるが、自分たちの住んでいる福岡県についての意識は薄い。



### こんな教材で

○ 本小単元は、福岡県の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置、そこに見られる人々の生活や産業と国内の他地域や外国との関わりについて理解することがねらいである。

#### 【地形と特色】

福岡県は、人口約506万6364人、(2009/9/1 現在)面積4976km<sup>2</sup>で、福岡市と北九州市2つの政令指定都市を含む66市町村(28市34町4村)から構成されている。福岡県は、九州の一番北に位置し、大分県・熊本県・佐賀県と隣り合っている。また、朝鮮半島や中国大陸にも近い。東は周防灘、北は玄界灘・響灘、南西には有明海と三方を海に囲まれ、県の南東には英彦山山地、耳納山地、筑肥山地など1000mを越える山が連なっている。川は、筑後川、矢部川、遠賀川が特に大きく、川沿いには平野が広がり、自然に恵まれている。

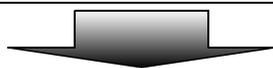
#### 【産業の特色】

農業は、筑後地方でもっとも盛んに行われている。県内では、いちご、小麦、菊、お茶、なす、かき、ぶどう、洋ランの栽培が有名である。また、漁業は、有明海と玄界灘が盛んで、有明海では、のりの養殖、玄界灘では、アジ、ブリ、たい、いかなどがとれる。県の面積の半分をしめる山林では、その4分の1が木材の生産として利用されているのに対して4分の3が特用林産物の生産に利用されている。工業は、北九州地方がもっとも盛んに行われており、特に、鉄鋼、自動

車、自動車部品の生産が盛んである。また、県内では、博多人形や小石原焼など、地域の特色を活かして伝えられてきた伝統工芸品が各地で作られている。

#### 【交通網の様子】

交通に関しては、福岡市を中心に県内各地と道路や鉄道で結ばれている。特に福岡市、北九州市を中心に高速道路や新幹線、空港が整備されていて、国内各地や外国とも結びついている。このように、福岡県は自然条件を活かした産業が盛んで、そこに住む人々の生活が営まれている。また、福岡市を中心に県内各地やほかの都道府県、外国ともつながりが深いのが特徴である。福岡県の様子を調べ、地形や産業の特色を考えることは、自分たちの住んでいる県に対する誇りと愛情を育てるのに価値高いと考える。



## こんな指導構想で

#### 【出合わせ方の工夫】

福岡県について関心をもつことができるように、行ったことのある所の紹介や特産物について発表するようにする。その際、実物や写真、パンフレットなども持ってきてよいことにする。

#### 【意欲を高める学習問題づくり】

学習したことを「1学期学級を訪れたアメリカの〇〇〇〇君」に「福岡県のことを教えよう」ともちかけ、相手意識をはっきりともたせ、紹介するために福岡県の地形や産業の特色について調べようという意欲をもたせる。

#### 【学び方を身につけさせる工夫】

- 地図帳の活用  
常時地図帳は用意させておき、いつでも見ることができるようにするとともに、地図帳の見方についての指導を行い、方位、縮尺など学習したことを活用できるようにする。
- 地図タイムの設定  
5分間程度を地図に親しむ時間とし、クイズ形式で子どもたちが楽しく繰り返し地図で学習できるようにする。
- 福岡県白地図への書きこみ  
自分で調べたことは、白地図にまとめるようにし、自分なりの福岡県の地図を作っていくようにする。
- 日本白地図の活用  
日本の白地図をノートに貼付し、他県とのつながりが出てきた場合は、地図帳で確認の上、色をつけていくようにする。

#### 【興味・関心別調べ学習】

子どもたちの疑問を大切にし、また、追究活動を効率的に行えるよう、追究したい同じエリアの子ども同士でグループを作り、調べ活動ができるようにする。その際、子どもたちが必要な資料は、教室内の福岡県情報コーナーから自由にとれるようにしたり、資料入手先を教えたり、資料提示をしたりして、追究活動がしやすいようにする。まとめ方は、地図と地名、方位や距離、行き方（交通）、ツアー名、特色とわけを必ず入れることとし、今までの地図スキルタイムの学習を活かしてまとめるようにする。

#### 【他者との学びを意識させる表現・交流の工夫】

交流の時間を設定し、子どもたちの福岡県への知識と思いを広げ深めるようにする。

- おすすめツアーの設定  
子どもたちが楽しんで意欲的に学習できるように、おすすめの場所を「〇〇ツアー」とする。〇〇には、学習して学んだことを一言で表せるようにする。ツアー計画は、目的地の地形や土地の様子、目的地までの行き方（交通手段）、福岡市から目的地までの方位、距離（縮尺）を考えるようにし、学習した地図の見方を活かしながらたてるようにする。また、聞き手も地図を持って聞くことにより、方位や距離、土地の様子を考えながら主体的に聞けるようにしていく。つまり、発表者、聞き手ともに福岡県の地図を十分に活用し、地図上で、交通や地形や産業を結びつけて考えることができるようにする。また、現在地や行き先の地名確認クイズ、特産物のクイズや簡単な劇など子どもたちのアイデアも活かし、福岡県の特色を楽しんで学習できるようにする。
- 全体で交流  
様々な地域のツアーを紹介しあうことで、福岡県には様々なよさがあることに気づくようにする。



## こんな目標と指導計画で

### 3 小単元の目標と指導計画 (全14時間)

- 地図に親しみ、福岡県の地形や土地利用の様子に関心をもち、意欲的に調べたり考えたりすることができる。 【関心・意欲・態度】
- 福岡県の地形や土地利用、産業や交通網の様子について、調べたことをもとに福岡県の特色を考えることができる。 【思考・判断】
- 福岡県内における福岡市の地理的位置を、地図を活用しながら調べ、隣接する市町村などとの関係や、ある地点からの方位と距離を表現することができる。 【資料活用・表現】
- 日本国内における福岡県の地理的位置を、地図を活用しながら調べ、隣接する都道府県などとの関係や、他都道府県からの方位や距離を表現することができる。 【資料活用・表現】
- 福岡県全体の地形や土地利用の様子、交通網の様子や主な都市の位置を、地図や立体模型地図を活用して具体的に調べることができる。 【資料活用・表現】
- 福岡県や県内における福岡市の地理的位置を確認し、県全体の地形や土地利用の様子、交通網の様子、主な都市の位置、産業や地形条件から見て、県内の特色ある地域について理解することができる。 【知識・理解】

過程	学習活動と内容	指導上の留意点	配時
つ か む	<p>1, 福岡県について知っていることや行ったことのある地名について発表し、学習問題を作る。</p> <p>(1) 福岡県について知っていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名物, 特産, 有名なものについて 明太子, ラーメン, 博多人形, いちご,</li> <li>・知っている地名や場所について 福岡市, 前原市, 福岡ドーム, 福岡タワー, スペースワールド, 太宰府, 筑後川</li> <li>・その他知っていること 祭り (山笠, どんたく, 放生や, 玉せせり)</li> </ul> <p>(2) 地図の見方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八方位の意味や使い方</li> <li>・縮尺の意味と使い方 ・索引の使い方</li> <li>・等高線の意味と使い方</li> <li>・地図の見方「ち・き・と・こ・ほ・し」 ち・・・地形      き・・・地図記号 と・・・土地利用      こ・・・交通網 ほ・・・方位      し・・・縮尺</li> </ul> <p>(3) 福岡県における福岡市の位置や周りの様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡県の形</li> <li>・県内における福岡市の位置</li> <li>・周りの市町村</li> <li>・主な都市と距離</li> </ul> <p>(4) 日本国内における福岡県の位置や周りの様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の形</li> <li>・日本国内における福岡県の位置</li> <li>・周りの都道府県</li> <li>・主な都市と距離</li> </ul> <p>(5) 立体模型地図や土地利用図を見て、分かったことや考えたこと、疑問点を発表しあい、学習問題をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福岡県の特産品や自分が行ったことがある地名や場所について、家族に聞き、実物や写真、包装紙などがあれば持ってくるように事前に知らせておく。 <span style="float: right;">①</span></li> <li>○ 写真や包装紙などは、教室内に設置した「福岡県情報コーナー」に掲示していく。</li> <li>○ 子どもたちが興味・関心をもって、学習できるようクイズ形式で発問する。</li> <li>○ 八方位については、どこを基準にするかで言い方が違ってくることをおさえるようにする。 <span style="float: right;">①</span></li> <li>○ 地図の縮尺は、用途によって使い分けられていること、数字が大きくなると地図が細くなることを異なる地図を使って気づかせるようにする。 <span style="float: right;">①</span></li> <li>○ 地図タイムを使ってくり返し学習する。</li> <li>○ 県の形については、「犬の形」など何かに見立ててイメージをつくるようにする。</li> <li>○ 地名は全員に地図帳でチェックさせ、その地名に指を置き、確認するようにする。 <span style="float: right;">① 本時</span></li> <li>○ 地形の変化をとらえやすくするため、目で見ただけでなく、立体地図模型を手でさわってみるようにする。 <span style="float: right;">①</span></li> </ul>	5

- ・高いところと低いところ，平らなところ
- ・主な山地，平地，川，流れこむ海
- ・釈迦岳、背振山、筑後平野、福岡平野

- 地形と土地利用を関連させて発問するようにする。（凡例，色）
- 図工で絵手紙を描く活動などに関連させて7月クラスに体験入学していた○○○○君に，みんなが住んでいる福岡県について教えよう」ともちかけ，県の様子についてもっと知ろうとする意

＜学習問題＞

福岡県の様子（地形・産業）を調べ，○○○○君に紹介する福岡県の特色ツアーガイドを作ろう。

欲を  
高

2. 学習問題に対する視点を作り，学習計画をたてる。

- (1) 調べる視点をつくり，エリアに分ける。
- ・三方海に囲まれているけど，それぞれ何がとれるのかな。
  - ・結構山が多いね。山地ではどんなことをしているのかな。何がとれるのかな。
  - ・北九州は，工場が多いね。何を作っているのだろう。
  - ・福岡県の真ん中は，山に囲まれているね。どんな生活をしているのだろう？
  - ・福岡県の南は田や畑，果樹園が多いよ。何を作っているのかな？ちようちんやかすりも見えたよ。
  - ・福岡市のことや周りのことももっと知りたいな。

めるようにする。

2

- ①福岡県の海（玄界灘・響灘・周防灘・有明海）エリア
- ②福岡県の山地（英彦山・耳納山地）エリア
- ③北九州周辺エリア
- ④福岡県の真ん中エリア
- ⑤筑後川周辺エリア
- ⑥福岡市周辺エリア

○  
地形や  
土地  
利用

(2) 自分の調べるエリアを決め，学習計画をたてる。

- おすすめツアー  
一人調べ→グループ調べ  
調べること

- ・ ツアー地域の主な地名と「ち・き・と・こ・ほ・し」
- (福岡市からの方位，行き方（交通），距離)
- ・ どんなものが（主に産業）
  - ・ どれくらい
  - ・ どうしてさかんなのか（地形，土地利用）

調べる方法

- ・ 地図帳 ・ よい子の社会科
- ・ パンフレット「わたしたちの福岡県」
- ・ 福岡県の農林水産業・情報コーナー
- ・ インターネット ・ 電話 ・ 見学

まとめ方

- ・ 模造紙に（県の白地図入り）
- ① 地名（位置）
  - ② 行き方（交通）
  - ③ 福岡市からの方位，距離
  - ④ 地形，土地利用の様子
  - ⑤ 特産物（ツアーの見所）
  - ⑥ どうしてさかんのか（わけ）

図から見て調べる視 点をつくり，福岡県をいくつかのエリアに分ける。

①

- 子どもたちに調べたいエリアアンケートをとり，担当エリアを決める。

- 3年生の時の学習を想起させ，紹介することに自然や地形や位置，交通網を入れることに気づくようにする。

- 地図スキルを高めるために，ツアーには必ず白地図を入れ，福岡市からの方位，距離，行き方も入れるようにする。

- 教室内に情報コーナーをつくり，県庁のホームページや各市町村のパンフ

4

3. 福岡県の特色を紹介するおすすめツアー

さ  
ぐ  
る

をつくる。

- (1) 自分のエリアの特色について調べる。
  - ・地図帳を使って
- (2) 同じエリアのグループで、○○○○君に紹介するおすすめツアーをつくる。

### 福岡海の幸めぐりツアー



## 4. 福岡県の特色を紹介するおすすめツアーについて話し合う。

- (1) おすすめツアーガイドを発表する。

ま  
と  
め  
る

### ・聴き合いガイド

#### 聞き手

- ・行き先を地図で確認しながら
- ・反応しながら (うなずき, 返事)
- ・自分の調べた地域の地形や特色と比べながら (同じ所, 違う所)
- ・分かったこと, 考えたこと, よかったところ, 感想, 質問

#### 発表者

- ・お客さんのことを考えて (声の大きさ・ゆっくり・はっきり・目線・反応,)
- ・地図や資料を指しながら
- ・見所, エリアの特色をズバリ
- ・最高の発表を

- (2) 福岡県の特色について考えまとめる。

レットや資料など自由に見れるようにしておく。

- 県庁や各市町村のホームページや駅や旅行代理店のパンフレットを資料として集めさせる。
- その地域の有名な伝統行事 (お祭り) やイベント, 観光地, 史跡なども入れてよいことにする。

- 調べる視点や方法を明確にし, ツアーづくりがスムーズに行くようにする。うまくツアーづくりができないグループには参考例を提示して個別指導をする。
- 自分だけでなく多くの人が行ってみたいくなる楽しいツアーに, そして, 地図をもって聞く人のことを考えながらツアーを作るようにする。(クイズ, 豆知識, ガイド風に発表, 写真・実物展示など)

- 聞く人は, 地図帳をもち, 発表者が今どこの説明をしているのか考えながら聞くようにする。
- 各ツアーの特色, 資料, 特色となったわけについて板書し, 子どもたちがそれぞれの特色が地形をいかしているということに気づくようにする。

- 聴き合いガイドで子どもたちの発表や交流の助けとなるようにする。
- 発表を聞いて, 福岡県の特色について分かったこと・考えたこと・思ったことを中心に交流するようにする。

- 発表が終わったツアーガイドは教室に掲示し, 子どもたちがいつでも見られるようにする。
- 地形や交通, 産業, 特色のある地域について関連づけて考えさせるようにする。

わたしたちの福岡県は、農業、漁業、工業、伝統工芸、林業などの産業が、地形や土地の様子、交通網をいかしながら行われている、たくさんのおすすめがある県である。

い  
か  
す

- 5, それぞれのツアーガイドを見直し, ○○○○君に紹介する福岡県のツアーガイドを作る。

- ・ビデオレター
- ・Eメール

- 人々の努力の視点に目を向けて発表したグループをとりあげ, 小石原の学習へとつなげていくようにする。
- 県の学習を振り返ることができるように学習の流れに沿って掲示物をはる。

- 県の学習を振り返ることができるように学習の流れに沿って掲示物をはる。



4 本時 日本国内における福岡県の位置や周りの様子について調べる。(4 / 14)  
 於 4年〇組 教室

5 本時の目標

- 日本国内における福岡県の位置について理解するとともに、福岡県以外の都道府県に関心を持つことができる。

6 本時指導の考え方

- 児童たちは前時まで、地図の見方や、それを活用して福岡県の様子について調べてきている。しかし、日本全体の中で、福岡県がどのような位置にあるのかについてはまだわかっていない児童が多い。  
 そこで本時は、大きく2つの活動を行う。

① 日本の概要について話し合う

まず、日本地図の白地図を提示し、日本の概要をとらえさせる。  
 前時に、福岡県の形からイメージを持たせ、福岡県の概要をとらえているので、同じような学習形式をとることで、児童も見通しをもつことができると考える。  
 児童が白地図から、気付いたことを発言する時に、教師が北海道、本州、四国、九州の名称をおさえたり、より具体的に気付きを深められるように距離や面積など資料を用意しておく必要に応じて提示する。

② 他県から見た福岡県の位置を捉える。

日本全体の概要がつかめた所で、他の都道府県から見た福岡県の位置について調べさせる。その時、知っている都道府県をみんなに紹介させるようにするが、児童にとってつながりのある都道府県を紹介させるようにする。紹介する時には、地図帳で旅をするように場所を説明させるとともに、行ったことのある場所や、特産品などを写真資料等を交えながら、分かりやすく説明することができるようにする。そして、紹介してもらった都道府県の位置を地図で確認した上で、その都道府県から見た福岡県の位置について確認していくようにする。  
 福岡県より東に位置する都道府県や九州の他県の紹介を児童にしてもらうことで、福岡県の位置は、日本の西の方に位置すること、九州の都道府県の紹介をしてもらうことで、九州の北側に位置することなどをおさえられるようにする。

7 本時の展開

学習活動と内容	支援 (○)・留意点 (※)
<p>1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。                      めあて                      日本から見た福岡県の位置やまわりの様子を調べよう。</p>	<p>○ 前時に学習した福岡県の様子について問いかけ、前時の学習を想起させる。                      ※ 前時に作成した福岡県の白地図を提示しておく。</p>
<p>2 日本地図の白地図をもとに、日本の概要について気付いたことを話し合う。                      ○ どんな形に見えるか、イメージを話し合う。                       ○ 日本地図の白地図を見て、気付いたことを話し合う。                      ・大きな島が4つある。                      ・小さな島がたくさんある。                      ・縦に長く伸びている。</p>	<p>※ 前時での福岡県の学習を想起させ、同じように、形からイメージを持たせるようにする。                       ○ 児童が気付いたことから、北海道、本州、四国、九州の名称をおさえたり、より具体的に気付きを深められるような資料を用意しておく。</p>

3 日本の中の福岡県の位置について確認し、他県から見るとどの方位に位置するかを話し合う。

(1) 白地図の中の福岡県の位置について確認する。

(2) 自分が知っている都道府県を発表し、位置を確認した後、そこから見ると福岡県はどの方位に位置するかを話し合う。

- ・ まず博多から新幹線にのって、北東へ向かいます。小倉をすぎて本州に入ります。

○ 県の位置を確認するときは全員に地図帳でチェックさせ、その場所に指を置き、確認するようにする。

○ 紹介したい県へ旅をするように、交通機関を使って、途中経過なども入れながら、地図帳をたどらせ、その県に到達できるように発表させるようにする。

○ 単に知っているだけでなく、その県とのつながりや、行ったことのある場所や知っている場所を紹介しながら発言させるようにする。

※ 紹介したい県については、行った時の具体物などを用意するようにさせておく。

○ 確認した都道府県は提示資料に書き込み、数を増やしていくようにする。

4 今日の学習で気付いたことを話し合い、「今日の学習で」に書く。

(1) 色々な都道府県から見た福岡県の位置や他の都道府県について気付いたことを話し合う。

○ 福岡県が日本の西の方に位置すること、九州の北側に位置することなどをおさえられるようにする。

(2) 「今日の学習で」を書く。

○ 「今日の学習で」には、日本の中の福岡県についてわかったことや思ったことを書きまとめるように指導する。

8 本時の発問計画・板書

主な学習活動・発問 (T)・支援 (※)	予想される子どもの主な発言や反応
<p>1 本時のめあてを確認する T「これまでの学習で、福岡県のことについて学習してきましたね。今日は日本から見た福岡県について学習していきたいと思います。では、今日の学習のめあてをみんなで教えてください。」</p>	
<p>日本から見た福岡県の位置やまわりの様子を調べよう。</p>	
<p>2 日本地図の白地図をもとに、日本の概要について気付いたことを話し合う。 (1) どんな形に見えるか、イメージを話し合う。 T「では、こちらの地図を見て下さい。これは日本の地図です。福岡県でもどんな形に見えるかやりましたが、日本はどんな形に見えますか。」 (板書) ※「どうやったらそう見えますか？」 ※「この竜の頭の所は何というか知っていますか？」  (2) 日本地図の白地図を見て、気付いたことを話し合う。 T「では、この日本地図を見て、気付いたことを発表して下さい。」  T「この大きな島それぞれ名前が付いています。竜の頭は北海道。1番大きな体は本州、おしりの方が九州。その東側が四国といえます。」 (板書) T「縦じゃあ分からないなあ。方位で言っ てごらん。」</p>	<p>「日本から見た福岡県の位置やまわりの様子を調べよう。」  C 1 「竜のように見えます。」 C 2 「弓のように見えます。」  C 3 「周りを海に囲まれています。」 C 4 「大きな島が4つあって小さな島がたくさんあります。」  C 5 「縦に細長く伸びています。」「南北です。」</p>
<p>3 日本の中の福岡県の位置について確認し、他県から見るとどの方位に位置するかを話し合う。 (1) 白地図の中の福岡県の位置について確認する。 T「では、この日本地図の中で福岡県はどこにあるのでしょうか。地図帳で確認しましょう。何ページを見るといいですか？指で指しましょう。」</p>	<p>C 6 「福岡県の位置はここだと思います。」</p>

T 「日本には他にもたくさんの都道府県がありますね。全部でいくつあるか知っていますか？」

C 7 「47です。」

T 「本当かどうか確かめてごらん。」

T 「この他の都道府県から見ると福岡県はどの方角に位置するのでしょうか？」

先生がまず、やってみますので、みなさんも地図帳で旅をしてくださいね。地図帳の16～19ページを開けて下さい。

先生は、若い頃自転車で旅をしました。福岡から北東に向かって北九州を越えて、山口県に入りました。宇部で1日目泊まりました。宇部の南側には何が見えますか。2日目東に進み、広島まで行きました。広島の南側には何が見えますか。3日目さらに東へ進み、福山まで行きました。4日目さらに東へ進み姫路まで行きました。そして5日目東へ進み神戸を通過して、大阪から北東に進み、京都の東の滋賀県大津まで行きました。大津の北側には何が見えますか。この琵琶湖の近くに先生のおばあちゃんの家がありました。琵琶湖から流れる川でうなぎを釣ったこともあります。」

「海が見えます」

「海が見えます」

「島も見えます」

「琵琶湖が見えます」

(板書)

白地図の滋賀県の場所に印をつける

T 「滋賀県から見ると、福岡県はどの方位になりますか。」

C 9 「西になると思います。」

T 「それでは、同じように、他の都道府県を紹介してくれる人はいませんか。」

C 10 「

」

T 「〇〇県から見ると、福岡県はどの方位になりますか？」

(板書)

白地図の〇〇県に印をつける

T 「では、グループでやってみましょう。

1人が場所の説明をします。あとの3人が地図帳を旅し、たどりつけることができればOKです。そこから見た福岡県の位置を調べましょう。」

T 「はい、やめてください。それぞれの場所にたどりつくことができましたか？何県を紹介してもらったか、発表して下さい。」

C 11 「〇〇くんは〇〇県を紹介してもらいました。そこから福岡県を見ると〇の方位に位置しています。」

T 「地図帳を旅して福岡県を見て気がついたことを発表して下さい。」

T 「見る場所が変わると、方位も変わってくるのですね。」

では、日本の中で福岡県の位置はどのあたりといえいいでしょうか。」

T 「今日学習してわかったことや、これからやってみたいことについて、「今日の学習で」に書きましょう。」

T 「書いたことを聞かせてください。」

C 12 「見る所によって、福岡県の方位が変わっていました。」

C 13 「日本の西の方と言えると思います。」

C 14 「九州の中では北になると思います。」

<板書>

